# 序編　3 研修の年間スケジュールと校内研究

前年度のうちに見通しをもって準備することが、
年度当初のスムーズなスタートにつながります。

ＰＤＣＡのサイクルで、研修の見直しをしながら進めていくことが大切です！

Check！

## 前年度

### 1~3月

**全職員の参画による まとめと次年度の計画**

- □最終評価や児童生徒の変容を捉えて、成果と課題を考えている。
- □全教職員が、自由に思いを出し合い、成果と課題を整理している。
- □個々の実践に生かせる研究のまとめをして、共有している。
- □学校教育目標を踏まえて、４月からの研究の方向性を確認している。

## 本年度

### 4~5月

**研究の方向性と具体的な取組についての 共通理解**

- □研究目標が具体的で、全教職員が理解し、研究の意欲をもっている。
- □研究組織は動きやすく、各教職員の能力が発揮できる仕組みである。
- □研究会の目的・回数を無理なく設定し、年間計画に位置づけている。
- □各教員が自己の課題を明らかにし、個人の研究計画を立てている。
- □個人の研究内容を踏まえながら、県内外視察の割り振りをしている。
- □児童生徒、保護者、地域に研究内容を分かりやすく伝えている。
- □学校評価（ｱﾝｹｰﾄ含む）の項目に、研究に関わるものを入れている。

### 5~7月

**個々の授業改善につなげる 研究実践**

- □研究授業等で、研究の方向性や取組内容を共通理解している。
- □研究主任及び各部会等のリーダーが協議し、方向性を確認している。
- □全教職員で取り組む重点目標をしぼりこみ、実践に取り組んでいる。
- □授業にかかわるアンケートの項目を協議し、実践に生かしている。

職員研修
授業研究

### 8月　中間評価

研修内容をもとにした個々の実践

職員研修
授業研究

### 9~11月

- □中間評価を踏まえて、研究の内容や日程等を見直している。
- □研究成果を日常の実践に生かし、意欲を持って取り組んでいる。
- □研究主任が「研究だより」等で情報や研究の方向性を知らせている。
- □教員同士で、実践や悩みごとについて、日常的に話し合っている。
- □研究会情報や成果等を、随時学校だよりやHP等で公開している。

研修内容をもとにした個々の実践

職員研修
授業研究

### 12月　最終評価